

成人の発達障害者への接し方のポイント

病態分類

発達障害は主に以下の3つに分類されます：

- **自閉スペクトラム症（ASD）**：社会的な相互作用やコミュニケーションに困難を抱えることが多い。
- **注意欠陥・多動性障害（ADHD）**：注意力の持続が難しく、多動性や衝動性が特徴。
- **学習障害（LD）**：読み書きや計算など特定の学習領域での困難が見られる。

大人の発達障害者への接し方のポイント

1. **具体的な指示を出す**：抽象的な表現や比喩を避け、明確で具体的な言葉を使うことが重要です。例えば、「明日」と言う代わりに「水曜日の朝」と具体的に伝えます。
2. **一貫性を持たせる**：言動に一貫性を持たせることで、相手が安心感を持ちやすくなります。予測可能な環境を整えることも大切です。
3. **感情に配慮する**：相手の感情や反応に敏感になり、共感を示すことで信頼関係を築きます。温かく見守る姿勢が重要です。
4. **適切なタイミングで話しかける**：相手が集中している時やリラックスしている時を見計らって話しかけることで、より良いコミュニケーションが可能になります。



小児の発達障害者への接し方のポイント

1. **具体的な指示を出す**：子どもには、簡潔で具体的な指示を与えることが効果的です。複雑な指示は避け、一度に一つのことを伝えるようにします。
2. **視覚的支援を活用する**：絵や図を使って視覚的に理解を助ける方法が有効です。特に ASD の子どもには、視覚的な情報が理解を促進します。
3. **ポジティブなフィードバックを与える**：子どもができたことを褒めることで、自己肯定感を高め、次の行動へのモチベーションを引き出します。
4. **環境を整える**：静かで予測可能な環境を提供し、刺激を最小限に抑えることで、子どもが安心して過ごせるようにします。



まとめ

この新聞では、成人と小児の発達障害者への接し方のポイントを整理してみました。具体的な指示や一貫性、感情への配慮、視覚的支援など、相手の特性に応じた接し方を意識することが重要です。これにより、より良いコミュニケーションと理解が促進されるでしょう。